



営農NEWS



バレイショ種イモの播種までの管理

1 バレイショの種イモが届いたら、保管に注意してください

種イモを入手したら速やかに開封し、イモを払げて通気をよくします。傷み（シミ）や腐敗したイモは、取り除いてください。保管温度は2～5℃くらいがよく、日陰の涼しい乾燥した場所で、高く積み上げないように保管します。

なお、0℃以下に長時間遭遇したり、高温にさらすことや通気の悪いビニール等で覆うことは避けてください。

昨年は、種いも産地が台風等の影響により、生育中にストレスがかかっていますので、播種までの保管管理には例年以上に気を付けてください。

また、種イモの合格証票は、事故処理時に必要となりますので、大切に保管してください。

2 種イモの消毒を行いましょう

植付前に種イモ消毒を行うことにより、種子伝染病害の黒あざ病やそうか病を防除します。種イモの消毒は、出きるだけ未萌芽のうちにに行いましょう。薬剤により、萌芽後や種イモ切断後の処理で薬害の発生場合があります。

主な薬剤の処理は下記を参考に行ってください。（農薬の登録状況は、平成 29 年 2 月 13 日現在）。

1) そうか病、黒あざ病、黒あし病の登録薬剤による防除

アタッキン水和剤の 40 倍液に、種イモを 5～10 秒間浸漬します。

注) アタッキン水和剤を種イモ消毒で使用する場合は、薬害を避けるため、必ず萌芽前に、種イモを切断せずに処理し、所定の希釈倍率、浸漬時間を厳守してください。また、処理後の種イモは直ちに、風通しの良い場所で、速やかに乾燥させるようにしてください。

※その他、カセット水和剤（そうか病対象）、アグリマイシン-100（そうか病と黒あし病対象）の種イモ浸漬処理があります。

2) 黒あざ病の登録薬剤による防除

薬剤処理する種イモを、20 kg と仮定した場合、

① モンセレン粉剤 D L 100g を、種イモ 20 kg に対して粉衣する。（種イモ重量の 0.5% 量で粉衣）

② バリダシン粉剤 D L 60g を、種イモ 20 kg に対して粉衣する。（種イモ重量の 0.3% 量で粉衣）

注) 所定の種イモ量（切断した種イモでは切断面が乾いてから）を適当な容器に入れ、そこに所定の薬量を混和して、均一に粉衣してください。

※その他、黒あざ病防除として、リゾレックス水和剤、バリダシン液剤 5 などの種イモ浸漬処理があります。

3 浴光育芽（催芽）を行いましょう

丈夫な芽を出し、初期生育を揃えるために、浴光育芽を行いましょう。手順は、

1) 植付 3～4 週間前（品種や気温により若干の差があります）から、湿気のない庭先や倉庫の窓際、ハウス内などで、コンテナを利用したり、床に種イモを薄く並べて（3 段くらいまで）浴光育芽を開始します。床が地面の場合は、シート等を敷いて行ってください。

2) 育芽温度は日中 10～20℃くらいで、出来るだけ外気温に合わせるために施設内では十分換気を行い、20℃以上の高温は避けましょう。25℃以上になると、障害が発生する場合があります。また、夜間は凍結しないように注意してください。

3) 育芽期間中に週 1 回程度は、並べた上下を入れ替えて、均一に光をあてます。萌芽は 5mm くらいを目安にします。

4 畑の準備作業を行いましょう

バレイショの連作は、収量、品質ともに低下しますので、できれば 3～4 年間バレイショの作付けがない圃場を選びましょう。土壌酸度は微酸性が良く、中性～アルカリ性の場合は、そうか病の発生が多くなるので注意しましょう。圃場の耕起は 10 日前までに、完熟堆肥を全面に散布して、出きるだけ深く、丁寧に行いましょう。

5 適切な大きさの種イモに調整しましょう

育芽がすんだ種イモは、芽が 2～3 個ついて、重さ 30～60 g 程度になるように調整しましょう。1 個が 60 g 未満のものは切らずに丸植えし、60～120 g は 2 つ切りに、120 g 以上は 3 つ切り以上に切断して調整します。なお、切断後は、ゴザ等で覆って 2～3 日置き、切り口をコルク化させてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040